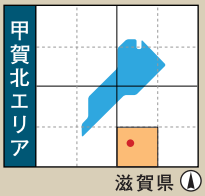
史跡
県指定

水口城跡（みなくちじょうあと）

水口町中邸　昭和47年2月23日指定



徳川家康・秀忠・家光の3代将軍は、江戸と上方の往復の途中に度々水口宿に宿泊しています。初めは寺院などを利用していましたが、元和6年（1620）に秀忠の娘、和子の入内のために御茶屋を造営、そして、寛永11年（1635）に上洛した家光のために、新たに造られたのが、この水口城です。

当時のできごと	
1603年	徳川幕府成立
1613年	支倉常長メキシコへ出発
1636年	長崎出島完成

水口城跡について

大名の遊猟や上洛、参勤交代の際の居館を御殿もしくは、御茶屋と呼びます。水口城は徳川3代将軍家光が寛永11年（1635）に上洛した際に築かれた御殿（御茶屋）で、徳川実記を始めとする資料によれば、造営は寛永10年に小堀政一（遠州）らを作事奉業とし、半年余りの期間で竣工しています。

水口城が使われたのは、寛永11年8月の1回だけで、後は、城番を置いて維持しています。天和2年（1682）に、加藤氏が入部して水口藩が成立しますが、本丸の中は利用することなく、維持に努めるだけでした。しかし、施設の老朽化と維持の管理の困難から、正徳年間（1711～16）には殿舎は全て撤去されてしまったようです。

御殿の遺構

城の遺構は、幕府京都大工頭中井家に伝わる指図（さしず）により、復元することができます。

城は本丸と二の丸からなり、本丸には将軍の居館である御所を中心とした殿舎が、二の丸には管理施設が配されていました。本丸の周囲には野洲川の伏流水を利用した水堀と、高石垣を築き、郭の四隅には、矢倉を置いていました。本丸の構成は京都に残る二条城に準じる、将軍家の宿館にふさわしい、格式の高いものでした。

現在、本丸部分は県立水口高等学校のグラウンドとして利用されていますが、部分的に行った発掘調査では、当時の遺構が地下に良好に残っていることがわかっています。



水口城跡

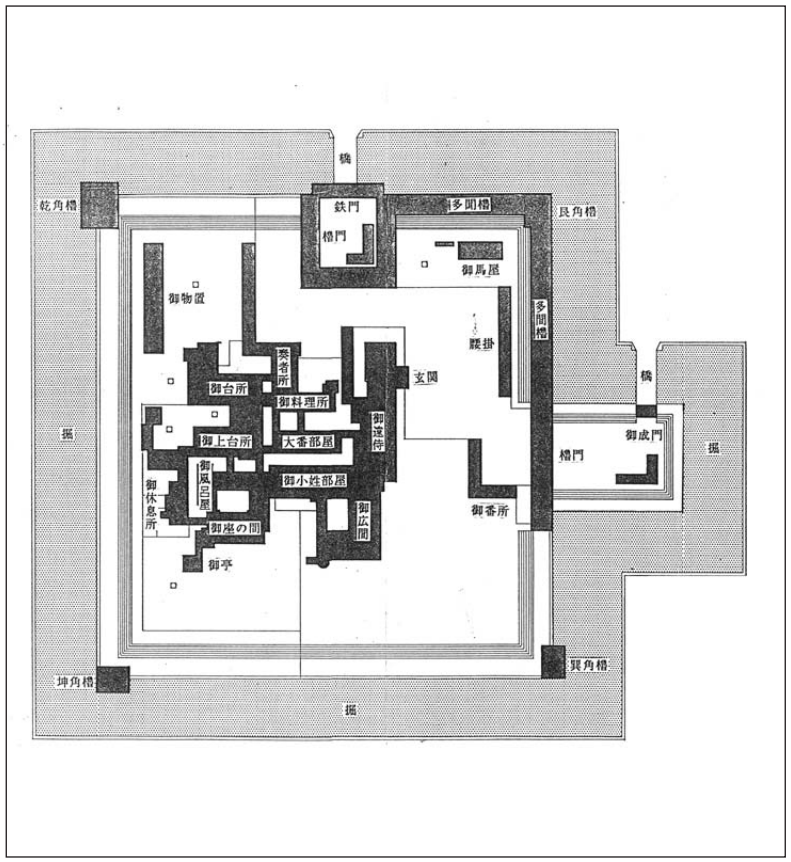
県内に残る御茶屋御殿

近江は、西と東を結ぶ交通の要衝にあり、東海道、中山道、朝鮮人街道などの主要路が通過しています。徳川3代将軍も上洛の際には近江を度々通り、その宿館として御茶屋御殿を整備しました。

このシートで紹介した水口城もその一つです。このほかに野洲町永原には「永原御茶屋御殿」が、能登川町伊庭には「伊庭御殿」が、山東町柏原には「柏原御殿」が整備されました。4カ所も徳川家の御殿が集中して整備され、現在まで残っているのは、全国でも滋賀県だけです。



水口城跡　堀と石垣



中井家文書（延宝6年〈1678〉）『水口城指図』にもとづき作成



水口城跡　石垣と土塁

関連する文化財

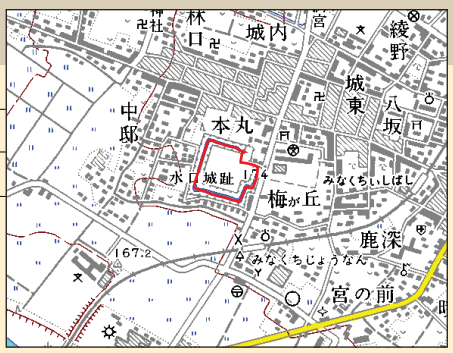
永原御殿跡（野洲町）	本丸・二の丸・三の丸から構成される徳川3代の御茶屋御殿。朝鮮人街道に面する
伊庭御殿跡（能登川町）	徳川家光の御茶屋御殿。朝鮮人街道に面する
柏原御殿跡（山東町）	中山道柏原宿に置かれた御茶屋御殿

もっと深く知りたい

水口町立歴史民俗資料館	☎0748-62-7141	甲賀郡水口町水口5638
水口城資料館	☎0748-63-5577	甲賀郡水口町本丸4103
野洲町立銅鐸博物館	☎077-587-4410	野洲郡野洲町辻町57-1

水口城跡へのアクセス

JR草津線　貴生川駅下車
近江鉄道　水口城南駅下車



【参考文献】〔近江の遺跡〕(財)滋賀県文化財保護協会　〔図説近江の街道〕郷土出版社　〔中近世古道調査報告書(東海道)〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　　平成16年3月